



Sailing Ahead

2026年2月

この2月はPIANCにとり、協力と進展に彩られたグローバルなコミュニティ全体の将来展望に満ちた活発な実り多き月でした。

先月、PIANC冬季会合を開催したことを喜ばしく思います。この冬季会合では、各委員会(Coms)、複数の活動中のWG及び執行委員会(ExCom)が一堂に会しました。これらの会合では、進行中の取り組みのレビュー、戦略的な優先活動の調整、PIANCの世界的な技術的専門性を推進する強固な連携の強化の貴重な機会となりました。

本号ニューズレターでは、複数WGから各々の担当業務の顕著な進展を報告しています。貴重な時間と専門知識を継続的にご提供していただいている専門家の皆さまに深く感謝申し上げます。

PIANCの新刊レポート「PIANC WG 215(海港委員会(MarCom))固定構造物への船舶衝突による事故の影響:設計上の考慮事項(Accidental Impacts from Ships on Fixed Structures: Design Considerations)」の発刊のお知らせもあります。また、「PIANC WG 227(環境委員会(EnvCom))浚渫や港湾・水路インフラ整備工事における環境ウィンドウ(EW(注))へのリスクベースのアプローチ・ガイド(A Guide for a Risk-Based Approach to Environmental Windows for Dredging and Navigation Infrastructure Works)」も、ほぼ刊行準備ができています。また、新規及び継続中の各WGへの参加委員の募集をしています。ご関心のある会員の皆さまのご応募を心よりお待ちしております。

(注)WG 227報告書では、「EW(Environmental Windows)」を「関連する環境面の脆弱性を考慮した上で水中での工事・作業が許可される期間」としています(23頁参照)。

PIANC HULL 2026
AGA & NAVIGATION: TO NET ZERO



<https://www.pianchull2026.org/>

最後に、英国・ハルにて開催するAGA(年次総会)に向けた準備がほぼ整っています。魅力的かつ刺激的な会合となることを確信して世界中から参集する会員の皆さまを心より歓迎します。

まだ登録していない方は、ぜひハルでの会合にご参加ください。

<https://www.pianchull2026.org.>

今後のPIANCイベントにご参加ください！

NordPIANC 2026



PIANCエストニアは、2026年9月9日から11日にかけて、エストニアの中世から続く街・首都タリンにて、PIANC北欧地域の会員の皆さまを心より歓迎いたします。詳細情報は追ってご案内いたします。



PIANC APAC 2026

隔年開催されている第4回PIANC APAC会合は、2026年8月25日～27日にブリスベン・コンベンション・エキシビション・センター(South Bank Cultural Precinctに立地)にて開催されます。

2026年会合のテーマは「繋がり・共有する - オセアニアとアジア・太平洋の隣人たち」です。

港湾・海洋インフラの全ての分野における調査研究、技術的イノベーション、ケーススタディ、ベストプラクティス及び実際の適用事例などの拡張アブストラクトについて、以下のURL経由にて2026年3月27日締切で募集中です。 <https://piancapac.com/abstracts/>

[会合ウェブサイト ここから！](https://piancapac.com/abstracts/)

PIANC 第11回COPEDEC 2027(PIANC-COPEDEC XI) 2027年2月21日 - 26日



第1回お知らせダウンロード [ここから！](#)

[会合ウェブサイト ここから！](#)

PIANC冬季会合からのニュース

執行委員会(ExCom)からのニュース

2026年第1回ExComをベルギー・ブリュッセルにて開催

2026年2月5日,PIANC執行委員会(ExCom)はブリュッセルにて会合を開催し,通例の審議事項と主要な戦略課題について検討,レビューを実施しました。あわせて,実施中WGの進捗状況についての最新報告を受け,新設WGの業務範囲(TOR)を承認しました。また,今後のPIANCイベントについて議論し,2026年のPIANCデ・パペー・ウィレムス賞(De Paepe-Willems Award)の審査結果・受賞者のアナウンスがありました。



また,会合では,強固なガバナンスと将来の発展に向けた組織のコミットメントを強化するため,PIANCの規則・規定(Rules & Regulations)の最終改定を完了させました。

(P-J事務局(注))上写真の前列中央:栗山PIANC本部副会長(PIANC-Japan会長)

海港委員会(MarCom)からのニュース

本年第1回MarComをベルギー・ブリュッセルにて開催



MarComは,2026年2月3日から4日,ベルギー・ブリュッセルにおいて,対面形式の2026年初の会合を開催しました。通例の審議事項や各WGの進捗状況のレビューに加え,委員会に対し,2つのWGのプレゼンテーションが行われました。WG164「浚渫・増深による港湾(施設)の改良(Upgrade of Ports by Deepening Dredged Depth)」及びWG225「耐震設計ガイドライン(Seismic Design Guidelines)」の2件であり,両者とも本年後半の報告書発刊に向けて,完成間近です。

MarCom WG 215「固定構造物への船舶衝突による事故の影響(Accidental Impacts from Ships on Fixed Structures)」報告書は,今月発刊されました。本レポートは,港湾および内陸水路にまたがる橋梁,栈橋,岸壁,ダム,閘門への誘導壁,その他の固定インフラ構造物への船舶衝突の(影響)評価や,その軽減策に向けた包括的な指針となっています。

(P-J事務局(注))直上写真の前列右から2人目:樋口MarCom日本委員



**PIANC Africa Webinar #003:
MarCom WG 224: Planning of Fishing Ports**

DATE 22 January 2026 at 16h30 to 18h00 SAST / UTC+2

Join PIANC Africa for a focused webinar on the updated guidance for planning and upgrading fishing harbours. **Martin Mannion**, Chair of **PIANC WG 224**, will unpack practical recommendations. The session will also feature a technical panel discussion with **Capt. Akinloye Azeez** (Chair, NMNOWTSSA Fishing Zonal Council, Nigeria) and **Ing. Stephen Yeboah Amplaw** (General Manager, Fishing Harbour, Ghana Ports and Harbours Authority), who will ground the guidance in West African operational realities.

Host **Tauqeer Ahmed**
Head: Engineering
Centre of Excellence, TNPA

Presenter **Martin Mannion**
Port Consultant/Expert,
Mannion Marine Limited

Panelist **Akinloye Azeez**
Chair,
NMNOWTSSA
Fishing Zonal Council, Nigeria

Panelist **Stephen Y Amplaw**
General Manager:
Fishing Harbour,
Ghana Ports and Harbours Authority

Registration Link: <https://bit.ly/4iUicbm>

また、[Martin Mannion](#)氏(WG 224議長)は、PIANC第3回アフリカ・ウェビナーにて、MarCom WG 224発刊報告書「漁港計画(Planning of Fishing Ports)」について講演を実施しました。

[Michael Grace](#)氏も、2026年2月10日に開催された「国連食糧農業機関(FAO)水産養殖部門の第7回ブルーポート・イニシアチブ・ワークショップ(Blue Ports Initiative workshop)」にて、同報告書について発表をしました。

[Michael Grace](#)
MarCom委員

内陸水路委員会(InCom)からのニュース

本年第1回InComをベルギー・ブリュッセルにて開催

2026年2月3日、InCom委員の技術視察を主催いただいたDe Vlaamse Waterweg nv社と、「将来の水路をどのように形成するか」について、知識を共有・交換する絶好の機会となりました。

InCom委員は、大規模投資とデジタル革新により支えられている「一層スマートな運営」「データ駆動型の交通管理」及び「水路ネットワークの強靱化」に向かう同社のロードマップを視察しました。当日のプログラムの一環として、視察メンバーは、ハッセルト(Hasselt)にある2つの主要施設を案内されました：

- ・ 東部地域RCCハッセルト：同社の近代的な遠隔管理センターとして、閘門・橋梁の集中管理及び将来を見据えた運営における主要な役割を担っています。
- ・ ハッセルト水力発電所：水路の運用と持続可能なエネルギー生成を融合させた多機能インフラとしての優れた事例

専門的知見を共有できたという自負とともに、未来を展望した内陸水路システムの開発に向かって国際的な同僚の皆さまと一緒できることを光栄に思います。また、同社のPR担当の Ben Nauwelaers氏の多大なご支援に対しても、心よりお礼申し上げます。

[Stefan Devocht](#)
InCom委員(De Vlaamse Waterweg nv社所属)

ハッセルトにおけるDe Vlaamse Waterweg社主催の有意義な視察やブリュッセル中心部での素晴



らしき夜に続き, InComでは, 2月4日にPIANC本部にて成果多き会合を開催しました。現地参加15名, リモート参加7名の構成で, メキシコからの新委員2名, Jorge Perez氏及びJesus Gonzalez氏を歓迎いたします。

(P-J事務局(注))左写真の左列の手前から3人目:
森木InCom日本委員

複数のメンバーから以下のWGの進捗状況について報告がありました：

- WG 249「気候変動による影響に対する内陸水路の適応策(Adaptation if IW for Climate Change Impacts)」について, [Rolien Van der Mark氏](#), [Nils Huber氏](#)
- WG 255「既設内陸水路の水工構造物の構造上の再評価(Structural Re-Assessment of Existing IW Hydraulic Structures)」について, [Andreas Panenka氏](#)

各委員の所属国の水路・港湾の運営管理についての知見を共有するという(InComの)伝統に従い, [Ruper Henn氏](#)及び[Katja Rettmeier氏](#)がドイツの内陸水路(IW)について発表しました。

[Annemarie Seiffert氏](#)からのBAW(Bundesanstalt für Wasserbau, Federal Waterways Engineering and Research Institute)が適用する点検・維持管理プロセスに関する非常に興味深いプレゼンに基づき, 将来の潜在的なTOR(WGの業務範囲)など新たな内陸水路のトピックスの議論も行いました。



InCom会合終了後, 委員長およびWGメンターはPIANC本部に集まり, 各WGの成功を促進するための(InComの)重要な役割についての議論がありました。

最後になりますが, InCom事務局長として10年以上にわたりご尽力いただいた[Jasna Muskatirovic氏](#)は, その任を[Catherine Swartenbroekx氏](#)に引き継ぐことになりました。JasnaさまのInComへのこれまでの多大なご貢献に心より感謝いたします。



[Catherine Swartenbroekx](#)
新InCom事務局長

環境委員会(EnviCom)からのニュース

2026年第1回EnviComをベルギー・ブリュッセルにて開催



PIANC EnviCom委員は、2026年2月3日から4日
にかけ、ベルギー・ブリュッセルにおいて本年
の初会合を開催しました。

多くの委員メンバーが参加し、今回もまた実
り多い会合となりました。

(P-J事務局(注))左写真の前列右側:中川EnviCom
日本委員

振興委員会(ProCom)からのニュース

本年第1回ProComをベルギー・ブリュッセルにて開催



2026年2月4日,PIANC ProCom委員会は、委員会
所属のサブグループの活動状況レビューのため
の会合を開催しました。特に力点を置くのは、
会員の拡大と各国部会への支援の強化です。
ProComでは,PIANCの知名度やエンゲージ
メントの一層の強化に向け,新たなプロモー
ション活動についての意見交換を行い,組織
の使命と世界的な影響力をより効果的に発信
するため,国際協力委員会(CoCom)との緊密に
協力の下,コーポレートビデオの製作につい
て議論しました。

(P-J事務局(注))左写真の右端:林田ProCom日本委員

また,ProComでは,新委員として [Arnold de Bruijn](#)氏を迎え入れました。同氏は,このたびご退任
されたRené Kolman氏の後任となります。

国際協力委員会(CoCom)からのニュース

本年第1回CoComをベルギー・ブリュッセルにて開催

国際協力委員会(CoCom)は、2026年2月4日にブリュッセルにてハイブリッド会合を開催しました。
本会合では、PIANC-COPEDEC XI 2027に係る最新情報、ターゲット国への関与・取組み、今後の改善
分野など、幾つかの重要な議題を取り上げました。

以下の事項について審議しました。

- ・ 2027年開催の第II回PIANC-COPEDEC
 - * PIANC-COPEDEC:開発途上国における海岸・港湾工学に関する国際会議(International Conference on Coastal and Port Engineering in Developing Countries)
- ・ ターゲット国のレビュー: グローバルな会員拡大の強化
- ・ 研修・教育委員会
- ・ 振興委員会(ProCom)との協力関係の強化

[今回会合の補足記事\(英\)はこちら・・・](#)

上記の補足記事の「仮訳」 [13頁参照](#)

[Mohammadreza Allahyar](#)

CoCom共同委員長

PIANCアフリカの新しいYouTubeチャンネルをご覧ください

アフリカは岐路に立っています。港湾や内陸水路のデジタル化, 港湾インフラの更新, グリーン燃料ハブの大きな可能性など, 私たちが直面する技術的課題には、地域だけの取り組みとしてだけでなく、世界的なコンセンサスも必要です。

そのため、我々(PIANC アフリカ)では、PIANCアフリカ・YouTube チャンネルを正式に開設しました。私たちは、単に動画をアップロードしているだけではなく、「デジタルの岸壁」を構築していて、このチャンネルでは、以下のスピーカーが講演を行っています。

- ・ [Piet Creemers](#)氏：河川情報サービス(RIS)の将来について詳細解説
- ・ [Martin Manion](#)氏：2025年の発刊の漁港設計に関する最新情報を共有
- ・ アフリカ地域の指導的な方々([Abidemi Ibrahim Famuyiwa](#)氏, [Stephen Ampaw](#)氏, Captain Akinloye Azeez氏及びCaptain [Lanre Badmus](#)氏)によるアフリカの港湾運営現場の現実を共有



当チャンネルご登録いただき、

<https://www.youtube.com/channel/UC6ixq3rR6WivVfZMTiQkzjg> でフォローしてください。「孤立した発想」を超えて、アフリカのインフラ構築を開始しましょう。!

[Tauqeer Ahmed](#)

CoCom委員

PIANC WGからのニュース



MarCom WG 233 「海洋・港湾構造物の点検・維持管理・補修(Inspection, maintenance and repair of waterfront facilities)」ポルトガルで会合

上記の補足記事の「仮訳」[14-15頁参照](#)



InCom WG 255 「既設内陸水路の水工構造物の構造上の再評価 (Structural Re-assessment of Existing (IW) Hydraulic Structures)」ベルギーで会合

上記の補足記事の「仮訳」[15頁参照](#)



InCom WG 265 「内陸水路・水工構造物の革新的な建設工法(Innovative Construction Methods of IW Hydraulic Structures)」ベルギーで会合

上記の補足記事の「仮訳」[16頁参照](#)



EnviCom WG 267 「生物多様性の拡大における水上交通インフラの役割(The Role of Waterborne Transport Infrastructure in Biodiversity Enhancement)」ベルギーでキックオフ会合

上記の補足記事の「仮訳」[17頁参照](#)

次のPIANCウェビナーをご覧ください



**PIANC Africa Webinar #004:
Sustainable Navigation Management of Natural
Rivers - PIANC WG 236**

DATE 19 March 2026 at 16h30 to 18h00 SAST / UTC+2

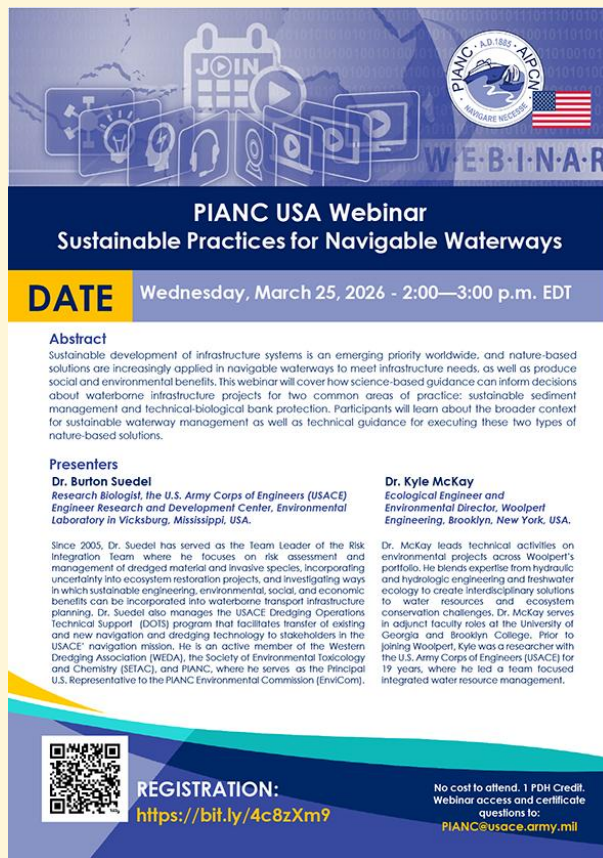
Join PIANC Africa for a focused webinar on sustainable navigation of natural rivers. **Dr. Calvin Creech**, PE, PhD—Vice President of PIANC and senior civil engineer with the US Army Corps of Engineers—will unpack guidance from PIANC WG 236. The session will feature a moderated discussion and Q&A to translate the framework into actionable steps for African river corridors, from adaptive channel management and dynamic charting to sediment strategies and Working with Nature.

Host
Tauqeer Ahmed
Head, Engineering
Centre of
Excellence, TNPA

Presenter
Calvin Creech
Vice President,
PIANC, US Army
Corps of Engineers

REGISTRATION LINK:
<https://bit.ly/4aV01Qk>

PIANCアフリカ・ウェビナー(第4回)
自然河川の航行性維持のための持続的な
マネジメント WG 236
日時:2026. 3. 19, 16:30～18:00(SAST/UTC+2)



**PIANC USA Webinar
Sustainable Practices for Navigable Waterways**

DATE Wednesday, March 25, 2026 - 2:00—3:00 p.m. EDT

Abstract
Sustainable development of infrastructure systems is an emerging priority worldwide, and nature-based solutions are increasingly applied in navigable waterways to meet infrastructure needs, as well as produce social and environmental benefits. This webinar will cover how science-based guidance can inform decisions about waterborne infrastructure projects for two common areas of practice: sustainable sediment management and technical-biological bank protection. Participants will learn about the broader context for sustainable waterway management as well as technical guidance for executing these two types of nature-based solutions.

Presenters

Dr. Burton Suedel
Research Biologist, the U.S. Army Corps of Engineers (USACE)
Engineer Research and Development Center, Environmental
Laboratory in Vicksburg, Mississippi, USA.

Dr. Kyle McKay
Ecological Engineer and
Environmental Director, Woolpert
Engineering, Brooklyn, New York, USA.

Since 2005, Dr. Suedel has served as the Team Leader of the Risk Integration Team where he focuses on risk assessment and management of dredged material and invasive species, incorporating uncertainty into ecosystem restoration projects, and investigating ways in which sustainable engineering, environmental, social, and economic benefits can be incorporated into waterborne transport infrastructure planning. Dr. Suedel also manages the USACE Dredging Operations Technical Support (DOTS) program that facilitates transfer of existing and new navigation and dredging technology to stakeholders in the USACE navigation mission. He is an active member of the Western Dredging Association (WEDA), the Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC), and PIANC, where he serves as the Principal U.S. Representative to the PIANC Environmental Commission (EnvCom).

Dr. McKay leads technical activities on environmental projects across Woolpert's portfolio. He blends expertise from hydraulic and hydrologic engineering and freshwater ecology to create interdisciplinary solutions to water resources and ecosystem conservation challenges. Dr. McKay serves in adjunct faculty roles at the University of Georgia and Brooklyn College. Prior to joining Woolpert, Kyle was a researcher with the U.S. Army Corps of Engineers (USACE) for 19 years, where he led a team focused integrated water resource management.

REGISTRATION:
<https://bit.ly/4c8zXm9>

No cost to attend. 1 PDH Credit.
Webinar access and certificate
questions to:
PIANC@usace.army.mil

PIANC米国ウェビナー
航行可能な水路のための持続可能な実践
日時:2026. 3. 25, 午後2時～3時(EDT, 米国東部時間)

上記のフライヤー(抜粋部)の「仮訳」[18頁参照](#)

PIANCアフリカ・ウェビナー(第3回)の開催報告 PIANC WG 224「漁港計画」

PIANCアフリカの第3回ウェビナーでは、今回、(旧WG報告書を)改訂・更新したWG 224「漁港計画」を紹介し、包括的かつグローバルな指針・ガイドラインについて、アフリカの実情に合わせた実践的な行動へと落とし込みました。[Tauqeer Ahmed](#)氏(TNPA(南ア港湾管理者), Centre of Excellence技術部門長)が司会を務めた本セッションでは、[Martin Mannion](#)氏(PIANC WG 224議長)による詳細プレゼンテーションと、Ing. [Stephen Y. Ampaw](#)氏(ガーナ)及びCapt. Akinloye Azeez氏(ナイジェリア)による現場に根ざしたパネルディスカッションを行いました。

ウェビナー録画は右記URLから視聴できます：https://youtu.be/08d7cZ_py58

今回ウェビナーの報告記事(英)はこちら・・・

上記の補足記事の「仮訳」[19-20頁参照](#)

[Tauqeer Ahmed](#)

CoCom委員

国際活動の場におけるPIANC

第15回MARLOG会合におけるPIANC活動：強靱化かつ最適化された物流回廊の推進

2026年2月8日から10日にかけて、エジプト・アレキサンドリアで開催された第15回国際海上交通・物流会合(MARLOG 15, the 15th International Maritime Transport and Logistics Conference)に、PIANCは科学技術協力パートナーとして参加しました。この役割は、2015年のMARLOG 14やそれ以前の会合を含めてMARLOGとの長年にわたる協力関係に基づくものです。

PIANCから海港委員会(MarCom)副委員長であるDr. [Babak Bani-Jamali](#)氏が代表として出席し、「強靱化かつ最適化された物流回廊」と題したハイレベル全体セッションの議長を務めました。

本セッションでは、運用面・環境面・地整学の面からの課題に直面する交通・物流回廊の強化に向けた戦略的・技術的・制度的アプローチに係る議論が行われました。



[第15回MARLOGの追加情報\(英\)はこちら・・・](#)

上記の補足記事の「仮訳」[21頁参照](#)

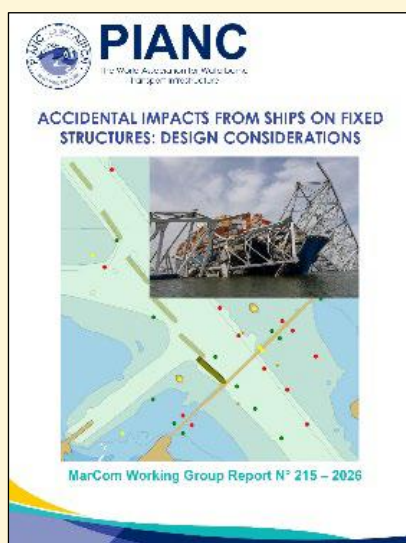
[Babak Bani-Jamali](#)

CoCom副委員長

出版物

発刊中

下記の報告書が2026年2月に刊行されました。



PIANC WG 215(海港委員会(MarCom))：‘固定構造物と船舶の衝突による事故の影響：設計上の考慮事項(Accidental Impacts from Ships on Fixed Structures: Design Considerations)’

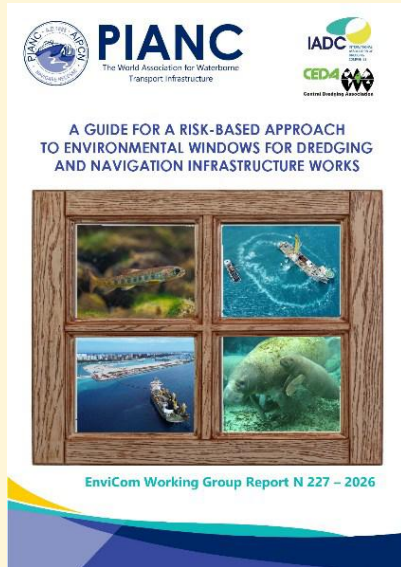
[PIANC会員は無料ダウンロード！](#)

[ウェブショップからの購入！](#)

本WG報告書の刊行時の本部プレスリリース資料の仮訳は[22頁参照](#)

近日発刊（注）

下記の報告書は2026年3月に発刊予定(注)です。(注)2026年3月3日に発刊済



PIANC WG 227(環境委員会(EnviCom)): ‘浚渫や港湾・水路インフラ整備工事における環境ウィンドウ(EW, Environmental Windows)へのリスクベースのアプローチ・ガイド(A Guide for a Risk-Based Approach to Environmental Windows for Dredging and Navigation Infrastructure Works)’

PIANC会員は無料ダウンロード！

ウェブショップからの購入！

本WG報告書の刊行時の本部プレスリリース資料の仮訳は[23-24頁参照](#)

PIANC 新設WGの委員の募集

新たに、2つの内陸水路委(InCom)WGが設置されます。ご応募は2026年4月15日までに、ご所属の国内(National Section)経由でお願いいたします（注、日本部会の会員にはご案内済みです）。国内部会がない場合は、info@pianc.orgまで。

WG 270 内陸水路インフラ・施設への外的脅威による負の影響の抑止戦略

WG 271 内陸水路インフラ・施設の通航率（航行可能性）の評価ガイドライン



お役立ち・道標



異なるタイムゾーンをまたぐ会議の計画は難しい場合がありますが、timeanddate.comの[the World Clock Meeting Planner]により、より簡単になります！ 日付を選択、参加者の所在地を入力するだけで、各参加者の現地時間が色分けされたタイムテーブルが表示されます。全員のスケジュールが最も重なった最適な時間帯を見つけやすくなります。

このツールは自動的にサマータイムを考慮し、適切な時間帯を選択後には会議の詳細の共有やエクスポートが可能です。世界の同僚・パートナーとの電話会議、オンライン会議、イベントの調整に非常に便利な方法です！

以下はPIANCのプラチナパートナーです：



ソーシャルメディアでPIANCをフォローしてください：



ニュースレターのご購読をご希望ですか？ メール設定は [こちらから](#)

PIANC公式サイト：<https://www.pianc.org/>

PIANC会員になるには（右記、日本部会へご連絡を） info@pianc-jp.org

<https://www.pianc.org/join-pianc/>



本年第I回CoComをベルギー・ブリュッセルにて開催

国際協力委員会(CoCom)は、2026年2月4日にブリュッセルにてハイブリッド会合を開催しました。本会合では、PIANC-COPEDEC XI 2027に係る最新情報、ターゲット国への関与・取組み、今後の改善分野など、幾つかの重要な議題を取り上げました。

2027年開催の第II回PIANC-COPEDEC (PIANC-COPEDEC XI 2027)

*PIANC-COPEDEC: 開発途上国における海岸・港湾工学に関する国際会議(International Conference on Coastal and Port Engineering in Developing Countries)

国際組織委員会(IOC)及び現地組織委員会(LOC)委員長からのご報告に続き、以下の最新情報がノートされました：

1. 最新情報：

2026年1月31日までに、合計182件の論文アブストラクトが受理されました。アブストラクトの暫定的なリストは、論文選考委員会(PSC)へ提出されます。

2. 合同委員会：

PSC, FAC, IOC及びLOCによる合同委員会は2026年3月最終週(3月23日～28日)に開催予定です。

ターゲット国のレビュー：グローバルな会員拡大の強化

PIANCのターゲット国に関する概要レビューを実施しました。複数のCoCom委員から、各々の担当地域における進捗状況について最新情報を提供し、各国部会の支援や、資格会員(QM)の資格獲得をサポートする取組みを重視する報告がありました。直近ではペルー及びメキシコが資格会員となったメンバーになります。

研修・教育委員会

CoCom委員長及び他のCoCom委員からの報告によれば、開発途上国においてPIANCの各種ガイドラインに関する14個のウェビナー及びセミナーが開催されています。さらに5つのウェビナーがアフリカにて開催される予定です。

振興委員会(ProCom)との協力関係の強化

会員拡大に関する臨時アドバイザリー会合について、[Han Ligteringen](#)氏および[Hartmut Brühl](#)氏が準備したメモランダム草案について、ProComとCoCom間のハイレベルの非公式連携について議論が行われました。

[Mohammadreza Allahyar](#)

CoCom共同議長

MarCom WG 233 「海洋・港湾構造物の点検・維持管理・補修(Inspection, maintenance and repair of waterfront facilities)」ポルトガル・Portimão港商業・クルーズ港施設で会合

2026年2月4日～5日,PIANC MarCom WG 233「海洋・港湾構造物の点検・維持管理・補修」の対面会合及びオンライン会合をPortimão港商業・クルーズ港施設にて開催しました。



今回の会合では, WG報告書の完成を目標として, 非常に集中的に会合を進めました。海上インフラの資産管理, それらの劣化, 各種点検方法, 維持管理, 予防保全, 補修・改良などの実施手順・計画並びにこれらのインフラの監視に係る第8章についてのレビューを行うことができました。

最終日には, PIANCポルトガル部会会長もWGに参加し, WGメンバーとの面談並びにWG 233の活動状況の説明を受けました。その後, [Filipa Duarte](#)氏からPortimão港商業・クルーズ港施設の回頭泊地及びアプローチ航路における計画的な維持浚渫事業に関するプレゼンがあり, 現地視察をもって終了しました。

2月5日午後は, WGは, Vilamouraマリーナの技術的な視察を行いました。同マリーナにおいては, CEOのDra. [Isolete Correia](#)氏及び彼女のチームから温かい歓迎を受けました。悪天候にもかかわらず, WGメンバーは, 同マリーナの良好な機能性向上と防護効果発揮を目的とする新規拡張工事を視察することができました。Eng. [Pedro Figueira](#)氏による本工事は, Oceaning - Consulting Engineers社がレビューし, ETERMAR社の施工によるものです。

WG 233およびPIANCポルトガル部会は, 今回会合の企画にご尽力いただいたAPS港湾管理当局(the Port Authority of Sines and Algarve)並びに, 非常に有意義な視察の機会を提供していただいたVilamouraマリーナに深く感謝申し上げます。



グループ写真, 左から順に:

Henk Voogt氏, Daniel O'Connor氏, Kenichi Mizuno氏(P-J事務局(注), 水野WG 233日本委員), Tom Spencer氏, Eduardo Moutinho氏, Francisco Sancho氏及びFilipa Duarte氏
(Yoss Leclerc氏, Maurice Kerr氏, Karsten Holste氏及びBas Bruins氏はオンライン参加)

Francisco Sancho

PIANCポルトガル首席代表

InCom WG 255 「既設内陸水路の水工構造物の構造上の再評価(Structural Re-assessment of Existing (IW) Hydraulic Structures)」の進捗報告

2026年2月24日～25日, PIANC WG 255は, ブリュッセルのPIANC本部にて会合を開催, 既設(内陸水路)水工構造物の構造再評価に関する作業を推進しました。

本WGでは, 既設水工構造物の実用性の観点からの状態の評価を支援するための実践的な提言を策定中です。報告書の全体構成と主要項目は既に確定済みであり, 今回の会合では, 現場実践的な参考例として, 適切なケーススタディを選定することに焦点を当てました。鋼構造と鉄筋コンクリート構造における検証手法の違いについて取り上げた追加の事例についても議論をしました。

議論は非常に建設的なものとなり, これまで解釈・認識が異なっていた幾つかのトピックに関する見解の調整・統一に向けた助けとなるものでした。時間的な制約により, 現地視察はできませんでしたが, 伝統的なベルギー料理の夕食会と歴史を感じるブリュッセル市中心部の散策を通して, よりカジュアルな雰囲気での意見交換が継続されました。



PIANC本部のLeen氏及びAn氏による卓越した会合運営の支援並びに, 現地・オンラインによる参加メンバーの皆さまに心より感謝申し上げます。

本WGは, 6月末にロッテルダムで次回会合を開催予定です。

Victoria Malárics-Pfaff

WG 255議長

InCom WG 265 「内陸水路・水工構造物の革新的な建設工法(Innovative Construction Methods of IW Hydraulic Structures)」のベルギー会合と技術視察

InCom WG 265 「内陸水路(IW)・水工構造物の革新的な建設手法」では、2026年2月4日及び5日にブリュッセルにて会合を開催するとともに、アントワープのthe Royerssluis閘門ほかの視察を実施しました。



グループ写真(左から右): Harold Kötz氏(ドイツ), Stefan Lühr氏(ドイツ),
Maarten Marius氏(ベルギー)及びAmanda Sullivan氏(米国)

[Maarten Marius](#)

WG 265

EnviCom WG 267 「生物多様性の拡大における水上交通インフラの役割(The Role of Waterborne Transport Infrastructure in Biodiversity Enhancement)」キックオフ会合



2026年2月4日、ブリュッセルで開催されたPIANCディズにおいて、EnviCom WG 267「生物多様性の拡大における水上交通インフラの役割」を発足させました。本WGでは、[Dinda Mazeda](#)氏(議長)及び[Tom O'Mahoney](#)氏(副議長)が共同議長を務めます。

この共同議長制は、両人の専門分野の優位性を活用するための最大限に活かします。Dinda氏は港湾開発プロジェクトにおける環境管理責任者としての彼女の経験に基づいた実務的な視点を、Tom氏は水エインフラ設計専門家としての有意義な知見を提供し

てくれます。

今回のキックオフ会合では、コンサルタント、請負業者、研究機関及び大学等を含む幅広い専門分野を代表した世界各国のPIANC会員の積極的な参加もあり、力強く始動しました。本WGには、豪州、ベルギー、中国、オランダ、英国、米国、南アフリカからのPIANCの同僚が参加しています。今後、本WGは、気候変動とも絡み合う生物多様性の危機という、現代が直面する非常に差し迫った課題の一つに焦点を当てます。水上交通の分野における自然との協働・共生と生物多様性の拡大を図る機会の特定を目指します。

本WGの最終成果としては、水上交通インフラプロジェクトに携わる専門家による「生物多様性の拡大」への取り組みを支援するための実用的な枠組み・ツールボックスを策定・開発します。ここには、生息地の再生・強化、生態系サービスへのアプローチ、堆積物の浚渫やその土砂の有益な活用機会、気候変動への適応策、自然との協働・共生アプローチ、地域コミュニティの参画などを対象とする世界的なベストプラクティスも含まれます。

港湾や水路の管理当局、港湾や水路分野の研究者・技術者、環境科学者、投資者、政府行政機関、規制当局の皆さまに、我々のユーザー委員会へのご参加を呼びかけるとともに、枠組みの策定プロセスにおけるご意見の提出、ならびに「生物多様性の拡大プロジェクト」におけるベストプラクティスの提示が可能なケーススタディのご提供をお願いいたします。詳細については、本WGの業務範囲([Terms of Reference](#))をご参照ください。ユーザー委員会へのご協力いただける場合は、下記メールアドレスにご連絡ください。

dinda.mazeda@boskalis.com または tom.omahoney@deltares.nl.

[Dinda Mazeda](#)

WG 267議長



3月実施のウェビナー2件の開催概要

PIANCアフリカ・ウェビナー(第4回) 自然河川の航行性維持のための持続的な マネジメント WG 236

日時: 2026. 3. 19, 16:30~18:00(SAST, 南ア標準時)

概要: PIANC本部副会長, 米国陸軍工兵隊の上級土木技師であるDr. Calvin Creech氏が, PIANC WG 236のガイダンスを詳細解説します。本セッションでは, 適応型の水路管理, 動的な水深測量管理, 堆積物の対策戦略から自然との協働・共生に至るまで, アフリカの河川回廊向けの枠組みを実践可能なステップへと落とし込むためのモデレータによる討論や質疑応答を実施します。

主催者: Tauqeer Ahmed氏
TNPA(Transnet National Ports Authority,
南アの港湾管理者)

講演者: Dr. Calvin Creech氏

参加登録QRコード 及び URL



<https://bit.ly/4aV0lQk>

PIANC米国ウェビナー 航行可能な水路のための持続可能な実践

日時: 2026. 3. 25, 午後2時~3時(EDT, 米国東部時間)

概要: インフラシステムの持続可能な開発は世界的にも新たな優先課題となり, 航行可能性のある路では, そのインフラとして需要を満足させる満たすことにあわせ, 社会面・環境面の便益を創出するため, 自然由来のソリューションが一層採用されています。本ウェビナーでは, 科学的な根拠に基づく指針が, 2つの重要な実践分野「持続可能な堆積物管理と技術的・生物学的な水路・河岸防護」により海上インフラプロジェクトの意思決定にどのように貢献できるかを解説します。参加者は, 持続可能な水路管理の持つ広範な背景と, 上記の2つの自然由来のソリューションを実行するための技術的ガイダンスについて学びます。

講演者: Dr. Burton Suedel氏
生物学研究者, 米国陸軍工兵隊(USACE)
Dr. Kyle McKay氏
生態系エンジニア, Woolpert Eng. 社

参加登録QRコード 及び URL



<https://bit.ly/4c8zXm9>

第3回PIANCアフリカ・ウェビナー：「漁港の計画策定 - 指針から地上の真実まで」

PIANCアフリカの第3回ウェビナーでは、今回、(旧WG報告書を)改訂・更新されたWG 224「漁港計画」を紹介し、包括的かつグローバルな指針・ガイドラインについて、アフリカの実情に合わせた実践的な行動へと落とし込まれました。[Tauqeer Ahmed](#)氏(TNPA(南ア港湾管理者)、Centre of Excellence 技術部門長)が司会を務めた本セッションでは、[Martin Mannion](#)氏(PIANC WG 224議長)による詳細プレゼンテーションと、Ing. [Stephen Y. Ampyaw](#)氏(ガーナ)及びCapt. Akinloye Azeez氏(ナイジェリア)による現場に根ざしたパネルディスカッションを行いました。

ウェビナー録画は右記URLから視聴できます：https://youtu.be/08d7cZ_py58

Mannion氏は、漁港がミニチュアの貨物港湾ではない理由、そして漁港には独自の計画論理が必要な理由からプレゼンし、次のような説明をしました：堆積・埋没リスクが大きくなる小規模な泊地、特徴的な船舶の乾舷(水面から上甲板までの高さ)と水揚げ方法、岸壁・水際線から「有効であること」が求められるコールドチェーンや衛生面の要件等です。(今回)改訂・更新された指針(報告書)では、計画の原則が大幅に増補されるとともに、災害に対する強靱性と維持管理に係る独立した章の追加、競り市と、ICT/IoTについても一層掘り下げられた内容となっています。漁港における重要点は明確であり、岸壁延長や公称水深と同様に、漁港の日常パフォーマンスは、競り市の(商品)フロー、氷の供給状況、洗浄・排水設備、フォークリフトと歩行者の動線分離などにより決定されます。ケーススタディの資料(欧州の老舗漁港から最近のアフリカにおける漁港改修の事例まで)では、設計と運用を一つのシステムとして取り扱う必要性を示しました。

ガーナの視点として、Ing. Stephen Yeboah Ampyaw氏(ガーナ港湾管理者当局・漁港担当責任者)から、テマ(Tema)港の運営モデルと現在の改良事業のプレゼンがありました。具体的には、隣接するメインポートではなく、漁港(地区)を漁船が利用できるように、南防波堤の補強、内港泊地・外港泊地の増深・浚渫計画、バース予約・作業従事者の招集手配・各種サービス依頼のデジタル化の促進などです。漁船乗組員と市場の業者向けの新設の保健所は、福利厚生と作業時間の関連性を強調しています。(ガーナ全体を)より広範にみると、Axim, Dixcove及びSekondi各地における最新プロジェクトが示すように、露天の浜辺での荷揚げから遮蔽・保護された施設への転換(製氷設備と市場施設の組み合わせ)により、市場とコールドチェーン(設備)が追従できれば、日帰りの漁船操業から複数日数の操業へと実用的な転換を可能にします。

ナイジェリアの視点として、Capt. Akinloye Azeez氏(ナイジェリア商船オフィサー・水上交通上級スタッフ協会、漁業区域協議会会長)から異なる実態も説明がありました：過去には活況を呈した複数の漁業ターミナルが、現在では取扱能力以下の稼働となり、一部は他の用途に転用され、日常的な制約条件として「維持管理面／水深(喫水)面の信頼性」が課題となっています。同氏が提唱する今後の道筋としては、改修・改良事業、補強、モニタリング(VMS/AIS)、民間セクターの参画、及びナイジェリアのブルー・エコノミー戦略に則った機能向上などを強調しました。また、海上安全の改善や、施設本来の機能を回復することへの関心の高まりにも言及した。

2つの共通するメッセージが浮かび上がりました。第一に、ガバナンスの重要性であり、港湾管理当局、協同組合、民間荷揚げ業者間の役割分担の明確化が、定期的な維持管理や競り市の衛生状態の実態確保が可能か否かを決定づけます。第二に、投資案件については便益の配分を把握するべきです。水揚げ量減少後の損失の削減、より安全な操業、生計手段と食料安全保障が、単一の損益計算書で検討できること



は稀です。そのため、多くの漁港プログラムでは、公的支援と国家ポートフォリオの視点が求められます。すなわち、改修の優先順位付け、実施可能な立地箇所への競り市の集約化、そして、安全性とアクセス確保が可能な水揚げ場所の分散化です。

最終的に、WG 224では技術者及び意思決定者に対して、稼働(可能な)システムを前提とする設計を提唱しています：現実の漁船や水揚げ方法に適合する水域施設の設計、最優先の設計の与条件として堆積土砂の動態を考慮すること、動線・レーン、排水及び温度管理等を考慮した競り市の計画とすること、事後対応ではなく戦略的な維持管理の資金を確保すること、そして関係者の行動の変革をもたらすデジタル化(ハイブリッド競り、電子納品・集配証、共有ダッシュボード上の単一の明確なKPIの提示)を第一歩とし、そこから発展させることです。

ウェビナー・セッション録画の視聴は右記URLから：https://youtu.be/08d7cZ_py58

本報告書(ガイドライン)へのアクセスは下記URLから(PIANC会員は無料です)：

<https://www.pianc.org/publication/planning-of-fishing-ports-2/>.

[Tauqeer Ahmed](#)

第15回MARLOG会合におけるPIANC活動：強靱化かつ最適化された物流回廊の推進

2026年2月8日から10日にかけて、エジプト・アレキサンドリアで開催された第15回国際海上交通・物流会合(MARLOG 15, the 15th International Maritime Transport and Logistics Conference)に、PIANCは継続的な役割である科学技術協力パートナーとして参加しました。この役割は、2015年のMARLOG 14やそれ以前の会合を含めてMARLOGとの長年にわたる協力関係に基づくものです。

PIANCから海港委員会(MarCom)副委員長であるDr. Babak Bani-Jamali氏が代表として出席し、「強靱化かつ最適化された物流回廊」と題したハイレベル全体セッションの議長を務めました。

本セッションでは、運用面・環境面・地整学の面からの課題に直面する交通・物流回廊の強化に向けた戦略的・技術的・制度的アプローチに係る議論が行われました。

全体会合では、主要な国際機関及び地域機関から基調講演者が招かれ、次の組織が参加しました：

- 地中海港湾協会(MEDPorts Association)：地中海の港湾管理者のネットワーク、協力関係の推進と地域にまたがるベストプラクティスを普及
- 地中海連合(UfM, Union for the Mediterranean)：EUと地中海諸国間の地域対話と発展を促進する政府間国際機関
- ウルヴァーハンプトン大学(University of Wolverhampton)：交通・物流及びインフラ強靱化の分野で高い専門性を有する英国の公立大学
- 欧州海事分野技術プラットフォーム(Waterborne Technology Platform(Waterborne.eu))：ベルギー・ブリュッセルに拠点を置き、水上交通分野の研究・イノベーションを調整
- エジプト空港会社(Egyptian Airports Company)：エジプトの地方空港の管理・運営を担務

この横断的な対話を通じ、本セッションでは、強靱かつ効率的な物流回廊を構築する上で、港湾、海上・陸上・航空システムの統合の重要性を強調、デジタル化及びその機会創出・課題に対する強固かつ包括的アプローチの重要性も指摘しました。

第15回MARLOGにより、PIANCと、会合を企画したアラブ科学技術及び海上交通アカデミー(AASTM)との連携が一層強化されました。この持続的な協力関係、及びPIANCが本会合の科学的な品質向上に寄与したことが評価され、PIANCはMARLOG会合より、特別賞を授与しました。

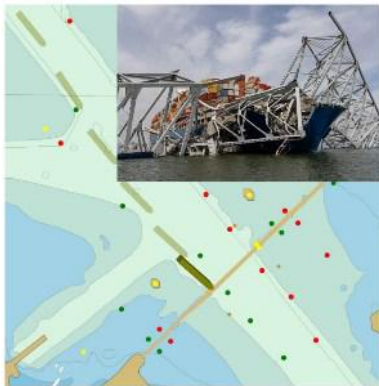
第15回MARLOGにおけるPIANCの積極的な役割は、世界的な持続可能かつ最適化されたスマート交通インフラの開発を支援するためのPIANCの「国際的な知識普及」「国際協力の促進」への継続的取り組みを反映するものです。

Babak Bani-Jamali

CoCom副委員長



ACCIDENTAL IMPACTS FROM SHIPS ON FIXED STRUCTURES: DESIGN CONSIDERATIONS



MarCom Working Group Report N° 215 – 2026

プレスリリース

2026年2月13日

‘固定構造物と船舶の衝突による事故の影響：設計上の考慮事項(Accidental Impacts from Ships on Fixed Structures: Design Considerations)’

海港委員会(MarCom) WG 215

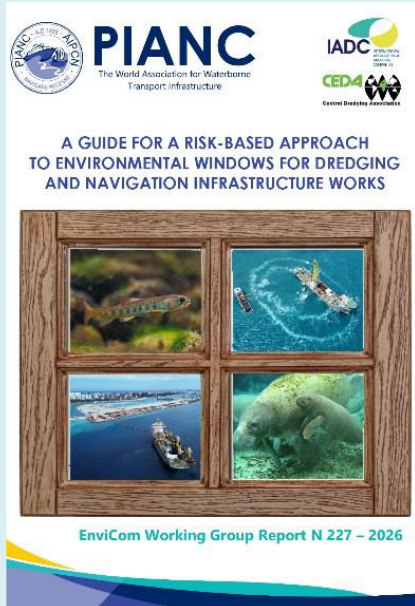
価格：非会員 144ユーロ／会員 無料(92頁)

<https://bit.ly/4qzJS7J>

PIANCは、WG 215報告書「固定構造物と船舶の衝突による事故の影響」の刊行を発表します。本報告書は、港湾および内陸水路における橋梁、栈橋、岸壁、ダム、閘門への航行アプローチ壁体、その他の固定構造物への船舶の衝突の影響を評価、軽減するための包括的なガイドラインです。

近年の注目度の高かった衝突事故では、基幹的な輸送用施設・資産を保護するためには、一貫性のあるエビデンスに基づくアプローチが必要であることを浮き彫りにしました。WG 215報告書では、施設・資産の所有者、技術者、規制当局による安全かつ強靱な設計、運営等の業務継続性を考慮した設計を支援するため、(以下の観点を含めて)ベストプラクティスを統合、主要な国際基準に準拠させています。

- (対象)範囲と定義の明確化：船舶による固定構造物への衝突事故の影響に焦点を当て、通常の接岸荷重を考慮
- 手法・方法の選定：構造物の形式、輸送交通の特性、影響結果の分類に基づく「決定論的手法」「準確率論的手法」「確率論的手法」の選択に関する実践的な指針を提供
- 入力データとその根拠：信頼性が高く、現場固有の評価(が可能な)手法の構築、傾向の変化等に応じた適宜の見直しを可能とするための「過去の事故記録」「AIS交通データ」「環境条件」「水路・航路の形状」データの活用
- 衝突メカニズム(力学)：「硬い衝撃・衝突」と「柔らかい衝撃・衝突(緩衝材等があるケース)」を統一的に取り扱い、流体力学的な付加質量、衝突角度／衝突高さ／衝突面積、動的な増幅を適切に考慮。
- リスク許容基準：AASHTO, ユーロコードEN 1990/1991-1-7, ISO 2394/10252及び関連する他の枠組み(ALARP原則を含む)を参照し、目標値(例：年間の事故確率／信頼性指標)の設定方法
- 軽減策・緩和策ツールボックス：リスクを許容可能な水準まで低減するための物理的対策(フェンダー、ドルフィン、囲い堰・締切構造、浮体式の防護フェンス等、人工島)及び運用面の対策(水先案内、タグボートによる支援、速度管理、航路標識、VTS/TSS)



プレスリリース

2026年3月3日

‘浚渫や港湾・水路インフラ整備工事における環境ウィンドウ(EW, Environmental Windows)へのリスクベースのアプローチ・ガイド(A Guide for a Risk-Based Approach to Environmental Windows for Dredging and Navigation Infrastructure Works)’

環境委員会(MarCom) WG 227

価格：非会員 141ユーロ／会員 無料 (90頁)

[A Guide for a Risk-Based Approach to Environmental Windows for Dredging and Navigation Infrastructure Works - PIANC](#)

浚渫及び港湾・水路インフラプロジェクトにおいて特定された環境リスクを管理するための主要な緩和策の一つが、「環境ウィンドウ(EW)」の活用です。EWは通常、関連する環境面の脆弱性を考慮した上で水中での工事・作業が許可される期間と理解されています。ただし、一部の関係者では逆の意味で使用する場合もあり、その定義や最終目的についての早期のコミュニケーション実施を推奨します。多くのプロジェクトにおいて、特定の環境リスクの不確実性があるケースでは、予防的な措置として環境ウィンドウ(EW)が適用されます。この場合は、水中工事・作業プロジェクトの非現実的または不必要な遅延や制約条件が発生し、そのこと自体が環境や安全性に影響を及ぼす可能性があります。

本報告書では、リスク評価、ステークホルダーの巻き込み、及びEWの適用に関して透明性が高く合理性のある意思決定など支援するための体系化された(かつ根拠に基づいた)アプローチを提供するためのSPRモデル(Source/Stressor(発生源/ストレス要因), Pathway(経路), Receptor((影響)受容体))と環境リスク管理(ERM, Environmental Risk Management)の活用に係る指針を策定しています。SPRモデルは、環境ストレス要因(例:浚渫作業)が、様々な曝露経路を通じ、関心対象となる受容体(例:海洋生物)にどのような影響を与える可能性があるかを特定するのに有用です。これらを総合的に組み合わせることで、個別プロジェクトに最適な緩和措置の適用や、最も適切な環境上の作業基準(EW)タイプの選定を支援します。

本報告書では、汎用性や適用性が異なる3種類の環境面からの作業制限(EW)について説明しています：

- 固定型の作業制限(EW)(Fixed EWs)は、水中作業は「特定の時間帯」または「予め定められた箇所」でのみ許可され、従って、作業制限を変更するための計測指標等はありません。この作業制限では実施は簡単ですが、しばしば過度に保守的な傾向になります。
- 受動的なフィードバック型の作業制限(EW)は、SPRモデルの動的な現場モニタリング手法(多くの場合は、単一パラメータ)による環境上の閾値超過が検出されない限り、作業を継続可能とするものです。このEWは、非適合状態の計測に対して事前に定められた対応プロトコルに依存します。

- 能動的なフィードバック型の作業制限(EW)では、環境条件がどのようにストレス要因や経路に影響を与えているか(の事前検討)に基づき、「作業レベルの低減」や、「時間的・空間的な事前予防のための作業枠の設定」により作業継続を可能とするものです。

能動的なフィードバック型の作業制限は、モニタリング(例: 各種のリアルタイム/定期的なもの)、及び予測モデリング入力により発動されます。継続的かつ包括的なSPR特性評価を活用することで、この作業制限は、ほぼリアルタイムで予防的な適用が可能となり、保全措置を維持しつつ動的な意思決定と高い運用面の汎用性を実現可能とします。

本報告書(ガイダンス)は、特定プロジェクトに対し、最適な作業制限(EW)手法をどのように決定するかの方法を提供します。本ガイダンスでは、確立された手法、行動、および決定事項を用いる環境リスク管理(ERM)アプローチや、SPRモデルを用いたプロジェクトの影響の潜在的な経路を確立するために考慮すべき事項を示しています。